

# ご挨拶

～「いのちの山河」上映に際して～

この度の東日本大震災で被災された皆さんに、心からお見舞い申し上げます。これからも引き続き共に生活再建への支援を続けたいと思っております。

さて、こんな折ですが、いえ、こんな折だからこそ、この映画を観て元気を出し、明日への生きる力として頂きたいのです。

この映画は日本国憲法の成り立ちを描き、多くの感動をよんだ大澤豊監督作品「日本の青空」の続編です。

豪雪、多病多死、貧困の三悪に、村民ぐるみで立ち向かい、その知恵と努力で見事に克服した東北の寒村、秋田県境の岩手県沢内村（現、西和賀町）の物語です。「いのちに格差があってはいけない」と深沢<sup>まさお</sup>晟雄村長のもと次々に村の改革が実行されていきます。村特産のなめこの増産。村と県都盛岡との冬季交通の確保。老人、乳児の医療費無料化を国に先駆けて実現し、村民の平均寿命の延長、乳児死亡率0を達成しました。

志半ばで病死した村長のひつぎを、村人が総出で迎える最後の場面は涙なしにはみられませんでした。

この映画は、多くの人達の協力とカンパによってつくられました。今回の実行委員会には、前回に加えて、多くの保健師さんにも参加して頂きました。

今まさに、日本人の心が試されている時、共に力を合わせて立ち向かっていしましょう。本日はご来場ありがとうございました。

2011年10月吉日

「いのちの山河」新川上映実行委員会

委員長 福井 米正

事務局長 小熊 房江

